

第5回 立野小学校 授業研究会

講師

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部

教育課程調査官・学力調査官 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

横浜創英大学 子ども教育学部

学部長

有本 淳 先生

大内 美智子 先生

國學院大学 人間開発学部

教授

寺本 貴啓 先生

横浜市立横浜深谷台小学校

校長

角井 治朗 先生

横浜市立三保小学校

校長

鈴木 康史 先生

筑波大学附属小学校

教諭

辻 健 先生

授業者 1年2組 伊坂 太志 生活科「はなとなかよしだいさくせん」



5月の初めから約2か月かけて育ててきた花について、世話の仕方や観察して分かった変化や成長の様子について話し合う「おはなかいぎ」を開き、クラス全員で話し合っ問題解決をすることができるような授業をしました。

見るだけでなく触ったり、においをかいだりして細かいところまで観察し、お花の種類ごとにグループで分かれば友達のお花と見比べることで、「ヒマワリの葉っぱはザラザラしているけどホウセンカはツルツルしているよ。」や「アサガオは支柱を立てたけどフウセンカズラはいるのかな。」と気づきが深まるようにしました。

講師の先生方からは、「自分の花だけでなく、友達の花にも愛着をもって細かいところまで観察できている。」「大勢の前で伝わりやすいように、様々な表現で分かりやすく話すことができている。」と子どもたちへの評価をいただきました。

授業者 3年2組 中村 円香
理科「風とゴムの力の働き」



ゴムの力で動く車を使って、ゴムの本数で進む力が変化することを実験し、考察、結論を出す授業を行いました。

ゴム1本とゴム2本で実験を行い、その結果を基に子どもたちは「ゴム1本よりも、ゴム2本の方がゴムの元に戻ろうとする力が強いから距離が伸びたのではないか。」「ゴム2本の方が車を動かしたときの手ごたえがあるからゴムの力が増えたのではないか。」と考えていました。

講師の先生方からは、「子どもたちが実験器具に愛着をもって実験を行えている。」「ゴムの数をさらに増やしたらどうなるのだろうか」と考える姿は、新たな問題発見をしている姿といえる。」と子どもたちへの評価をいただきました。

授業者 4年1組 山田 拓道
理科「空気と水の性質」



水の性質について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を表現し、問題解決することができるような授業をしました。

家庭に持ち帰っている iPad を活用して、自分の予想の根拠を身の回りの物を活用して説明したり記述したりしました。

講師の先生方からは、「子どもたちが自分で良く考え、予想の根拠となるものを用意し、説明する力がついてきている。」と子どもたちへの評価をいただきました。

授業者 6年3組 長谷川 椋太
理科「水溶液の性質」



炭酸水は、時間が経っても炭酸水のままなのか、複数の情報を基に、より妥当な考えをつくりだし、問題解決できる授業をしました。

炭酸水を、常温・冷蔵という温度や放置する期間を変えるなど、16パターンで実験し、その結果の中から自分の予想に必要な結果を選択し、考察していきました。

「1週間日に当たった場所で放置しても、冷蔵庫で放置しても石灰水が白く濁ったから、どれだけ放置しても炭酸水は炭酸水のままだ」と複数の結果を関連付けて考察しました。

講師の先生方からは、「結果を捉える力がついてきており、異なるデータを関連付けて考察できている。」と子どもたちへの評価をいただきました。